

富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 運営会議の概要

(1) 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項の調査審議

(2) 審議事項

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項

(3) 委員名簿（五十音順）

伊藤勢津子（県民カレッジ友の会「雷鳥会」副会長）

奥野 達夫（南砺市立福光美術館長、砺波地区センター運営会議会長）

尾山 敦子（県民カレッジ自遊塾県民教授）

黒田 卓（富山大学人間発達科学部教授）

佐藤 登（県経営者協会専務理事）

清水 賢（県公民館連合会事務局長）

立浪 勝（富山大学芸術文化学部教授、高岡地区センター運営会議会長）

道古 正子（公募委員）

中西 彰（県生涯学習団体協議会会長）

藤田公仁子（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授、富山地区センター運営会議会長）

武藤 憲夫（富山国際大学子ども育成学部教授、新川地区センター運営会議会長）

結城 正斉（射水市教育長）

横澤千鶴子（県婦人会事務局長）

2 これまで開催した会議の概要

◇平成 26 年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議

(1) 開催日時 平成 27 年 2 月 23 日（月）10:00～12:00

(2) 開催場所 富山県教育文化会館 4 階 403 号室

(3) 議 題

【報告事項】

① 平成 26 年度事業について

② 各地区センター運営会議での審議状況について

【協議事項】

・平成 27 年度事業計画について

(4) 会議資料

・平成 26 年度事業について

・平成 27 年度事業計画について

平成 26 年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議 議事概要

- 1 日 時 平成 27 年 2 月 23 日 (月) 10:00～12:00
- 2 場 所 富山県教育文化会館 4 階 403 号室
- 3 議事等 内容は概ね以下のとおり

(学長挨拶)

委員の皆様には、日頃より富山県の生涯学習に関して、様々な立場から多大なご協力を頂き、感謝申し上げます。2 月の初旬には、4 つの県民カレッジ地区センターにおいて運営会議を開催させていただきました。カレッジ本部と併せて各地区センターでは、平成 26 年度に計画しました講座等の事業に関して、概ね順調に推移したと受け止めております。これも皆様方のご協力があったからこそと思っております。

平成 26 年度における周年事業、記念事業では、県民カレッジ友の会雷鳥会が 40 周年を迎え、記念式典が行われました。「雷鳥会」は、富山県生涯学習団体協議会の加盟団体の中では、本県の生涯学習の草分け的存在として活躍され、本県がこのように生涯学習が活発になったのも雷鳥会の功績が大きく、富山県功労表彰を知事より表彰されるなどめでたい年でありました。また、20 周年を迎えた自遊塾では、県民の皆さんが主体的に講座の企画運営をし、受講生も自分たちで募集するなど、富山県が誇るべき生涯学習のあり方の一つとなっています。平成 7 年発足時の 16 講座から始まり、20 周年を迎えた今年度は 72 講座に成長し、来年度の募集を行いましたところ、さらに 13 講座増えて 85 講座になる予定です。県民の皆さんが、学んだことや身に付けたことを是非広げたい、教えたいという思いで進められる様子を、皆さんの熱意を感じています。さらに、高岡地区センターが 10 周年を迎えました。

本県の生涯学習にはたくさんの特徴があり、一つは自遊塾というユニークな講座、また各地区センターでの共学講座です。社会人の皆さんが高校生と一緒に学ぶという他県にあまり例がない講座を実施しています。さらに、県民カレッジに併設している映像センターは、各種映像記録の収集保管、撮影技術等の編集講座の開催、自主作品の撮影、制作を行っています。毎年 1 点ずつ、郷土学習教材として、広く学校教育、生涯学習に活用していただく映像資料を制作しています。今年度は、入善町出身の米澤紋三郎氏が富山県誕生に貢献されたことをまとめた「富山県誕生 分県の父 米澤紋三郎の志」を制作しました。この作品を全国地域の映像コンクールに出品したところ、審査員特別賞を受賞しました。また映像センターが平成 5 年に発足し、その 2 年後に映像制作に関心のある方々で、自主的サークル「ビデオメイト」を作られました。技術交流を長年継続し、今年度 20 周年を迎えられ、立派な記念誌と作品集を映像センターに寄贈されました。

このような節目の年で、県民カレッジといたしましては、今後さらに、県民の皆さんのいろいろな要望に応えるために努力してまいりたいと思っております。

本日は、限られた時間ではありますが、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局から出席委員及び事務局職員の紹介

委員の交代により清水職務代理者選出

中西会長の議事進行により事項協議、質疑応答

(1) 「平成 26 年度事業報告」

① 企画管理課、県民カレッジ地区センター、映像センター課の事業について説明

○ 事務局より事業の概要を説明

ア 本部の講座・事業について

- ・夏季講座、教養講座、広域交流講座（高岡地区担当）、高志の国文学講座、自遊塾、連携講座、とやま学遊ネット(含むとやま公民館学遊ネット)、メニューブック（キャンパス）、学遊祭ボランティア、カレッジ叢書、学習支援サービス（認定証の発行、マイページ会員登録）、広域学習サービス提供機関連絡会議等

イ 各地区センターの講座・事業について

- ・ふるさと発見講座、ふるさと文化探究講座、ふるさと富山の魅力探究講座（新規事業）、共学講座、各地区センターのキャンパスフェスティバル、学遊祭等

○ 映像センター課の運営・連携、事業について

- ・全国公立視聴覚センター連絡協議会との連携、学校教育との連携（14 歳の挑戦）、社会教育主事講習会の研修に協力、素材映像の教材化（「富山県誕生、分県の父 米澤紋三郎の志」、北陸新幹線富山駅工事の進捗状況映像、布橋灌頂絵等）、高志の国文学館企画展連携上映会、映像作品制作講座、富山県視聴覚研修会等

② 各地区センター運営会議の審議状況について

○ 新川地区センター

ア 共学講座について

- ・申込者数の推移 平成 16 年 826 名→ 平成 25 年 483 名→ 平成 26 年度 509 名
60 代が最も多く、70 代が増加したが、60 代のリピーターが 70 代に移行している。
- ・社会人と高校生が共に学ぶことについて
社会人の感想：「よかった」60%、 「ややよかった」35%
高校生の感想：「よかった」51%、 「ややよかった」46%
- ・生活への張り合い、教養が高められた、受講者同士のふれあい、家族とのコミュニケーション増につながる、規則正しい生活等に関する好意的な意見があげられた。
- ・今後の講座内容への要望として、地元に関する理解が深まる内容、地域の歴史について学びたいとの声があがっていた。

イ 広報活動について

- ・ホームページ更新で講座の様子を随時紹介し、地区センターだよりは、近隣の地域で回覧している。
キャンパスフェスティバルのチラシは、近隣地域に全戸配布し、入場者の増加につながった。

ウ 共学講座の「マイソング」の受講者が、NHK の「百万人の花が咲く」に昨年度に引き続き出演した。

○ 富山地区センター

ア 開所以来 2 ヶ年の事業の振り返りについて

- ・立地条件等から講座の実施曜日や時間帯など、受講者の要望への対応を検討した。

イ 共学講座について

- ・世代間交流やコミュニケーション能力向上の観点から意義があった。

ウ 広報について

- ・共学講座等も含め、詳しい情報の広報が必要である。
- ・実際に、高校生が県民カレッジ地区センターの事業について理解していることから、将来的に「何かを学びたい時」に、利用されるのではないかと。

エ 富山地区センター独自の活動について

- ・フィールドワークや座学に関して人気があり好評であった。ただし、ワークショップについては、もっとその情報を具体的に伝えること（何をやるのか、何ができるのか、何を学ぶのか、何が獲得できるのか等）が必要ではないかと。

オ 今後の施策について

- ・立地条件等から、富山市の生涯学習の重要な立ち位置にあり、勤め帰りの社会人の利用が容易、学生への高い認知度などの特長を活かしながら、今後講座を開催してほしい。

○ 高岡地区センター

ア 受講者数について

- ・人間探究コースにおいては歴史分野が多いことから男性、教養実践コースは健康面に関することから女性の受講者がそれぞれ多い。

イ 新規の受講者とリピーターについて

- ・新規受講者の割合が20%で、ほとんどが前期に集中している。後期にその前期受講者がリピーターとして受講するなど、一旦受講者になると他の講座でも繰り返し受講する傾向がある。リピーターを大切にしつつ、新規の受講者の開拓に力を入れてほしい。
- ・講座のチラシを現地研修や講座の内容にかかわる地域に配布することはできないかと。

ウ 共学講座について

- ・リピーターの受講者のレベルが高く、高校生に合わせた指導内容であることを理解してもらう必要がある。それが逆に、新規の受講者開拓につなげたい。

エ ふるさと富山の魅力探究講座について

- ・大変好評であり、再度参加したい希望者が多かった。
- ・最終回のワークショップの欠席があり、「活動名(ワークショップ)」の変更が必要ではないかとの声があった。なお、ワークショップ参加者は、大変満足していた。

○ 砺波地区センター

ア 共学講座について

- ・世代や性別を超えた受講者同士で学びあうことが、この講座の魅力となっている。

イ ふるさと富山の魅力探究講座について

- ・北陸新幹線や小矢部のアウトレットモールの開業で、交流人口の増大が期待される。その点において有効な講座であった。地域住民に対し、地元の魅力をアピールできるような講座を企画してほしい。
- ・受講者は、当初最終のプレゼンテーションに対して消極的であった。しかし、活発に意見が交換され、受講者は満足感を得ることができた。

- ・何度も抽選にもれて受講できない場合があり、その場合も納得できるように新規受講者を優先するなど工夫が必要ではないか。
- ・講座等の応募状況が地区センターの窓口でも分かるようにしてほしい。

(2) 平成 27 年度事業計画について

① 企画管理課、県民カレッジ地区センター、映像センター課の事業について説明

○ 事務局より事業概要を説明

- ・教養実践コースの 12 講座は 18 講座に、富山地区センターのふるさと文化探究講座は前後期各 1 講座を実施する。
- ・自遊塾が 85 講座、受講者が集まらない場合は開講しない場合あり。
- ・夏季講座は 7 月 11 日(土)で実施予定である。広域交流講座は、来年度、富山地区センターが担当する。
- ・メニューブック(キャンパス)は、平成 27 年 3 月で休刊予定である。連携講座は、手前印刷で地区センターだよりにより同封し、情報提供を継続する。
- ・学遊祭は 10 月 3 日(土)する予定である。
- ・高志の国文学入門講座は休止し、専門講座(探究コース、活用実践コース)をバス研修等を盛り込んで実施予定である。

○ 映像センターより事業説明

- ・旬の映像では、新幹線関係が一区切りすることから地域の伝統的な地域行事を撮影する予定である。
- ・映像制作講座では、カメラワークに重点をおいた講座を実施する予定である。
- ・とやま映像コンクールでは、映像工房の利用者への広報を心掛けたい。

② 各地区センター(各地区センターだより参照)

○ 新川、富山、高岡、砺波の順に説明

- ・ふるさと発見講座、ふるさと文化探究講座、共学講座等について説明

<協議・意見交換>

(委員)

- ・報告事項の平成 26 年度の自遊塾において 7 2 講座予定 となっているが、実際はどうか。

[回答] 予定を削除。 全て開講 (以下 [回答] の後は事務局等回答)

- ・市電とライトレールの一体化や縦断道路に伴う富山駅周辺の撮影について

[回答] 富山駅の撮影は継続して実施する予定である。新幹線駅は南北で撮影中である。ライトレールと接続する様子も撮影の予定である。

- ・地区センターの報告では、内容を取りまとめたメモを資料として事前配布してはどうか。

[回答] 次回の運営会議には、趣旨を反映したい。

- ・富山地区センターのふるさと文化探究講座(後期)のテーマについてはどういうテーマか。

〔回答〕後期も同様。

(委員)

- ・県民カレッジは、時代のニーズに対応した事業を展開している。
- ・雷鳥会は、ボランティア団体として県民カレッジの事業に協力しており、年5回会報を出している。各号には、県民カレッジの講座受講者の報告として必ず記載している。そこで、講座の取材等で本部及び各地区センターにご協力を頂きたい。

〔回答〕できる限り協力したい。ただし、生涯学習団体に加盟する団体が構成員の高齢化に伴い、新規参入が少なく団体数は減少している現状である。

(委員)

- ・自遊塾に新しい県民教授が多く誕生した。講師自身が新しいテーマをもって講座を開くことによって良い流れができ、進化をしているのではないか。
- ・新幹線が開業することで交流人口が増える。県民カレッジのような学びの場によって、富山のよさを知り、県外の方にお伝えし、交流の機会が広がるのではないかと考える。ワークショップへの参加意識が高まるようにしていかないと、交流の機会を逃し、富山県民に閉鎖的なイメージを作りかねない。もっと自由な参加型の講座を企画する必要がある。
- ・共学講座を活かして、世代間交流を進めていくことはよい。今の時代、若者にとってモデルがないうえ、志をもった人と触れ合う機会がない。若者に郷土への魅力をもってもらうようにしたい。

(委員)

- ・富山大学では、ワークショップが成功するために、「ワークショップでは何をするのか」ということにエネルギーを注ぎ、主催者側も「参加する」という意識で臨んだ。参加者は「よかった」という感想をもち、それが口コミ情報となり、受講者増加へとつながると考えて取り組んだ。
- ・オープンクラスでは、一般の受講者は、準備万端で参加されたり多くの質問をしたりと、その積極的な姿に、大学生は大きな刺激を受け、育っている状況である。オープンクラスは、今年度より県民カレッジ連携講座となり、今後も継続していきたい。
- ・企画の段階で「学習ニーズの掘り起こし」と「内容の高度化」が、問題点としてあげられる。リピーター対応として、きっかけ（入口）の学問ばかりではなく、ステップアップした学びが要求されている。その要求に応えられるような講座を企画していくことが今後の課題となっている。

(委員)

- ・富山県人の県民性や受講者の多くが高齢者であること考慮して、ワークショップの企画内容を工夫すべきではないかと考える。

(委員)

- ・「ワークショップ」を「みんなで考えよう」のように、英語を日本語にするなど、活動名の工夫が必要ではないか。講座の中に能動的な活動が盛り込まれていることは、大変評価される。しかし、単なる体験だけにならないようにするため、基本的な知識を習得する時間の確保や座学で学んだ資料を蓄積することも重要である。
- ・新幹線開業効果は大変大きい。石川では、東京から2時間圏内であることを活かして、日帰り年4回の講座を企画しているところもある。県民カレッジでも検討の余地があるのではないか。

- ・映像センター課のデジタル映像ライブラリーでは、外部から多くアクセスをしてもらうための You Tube との連動について、どのような進捗状況なのか。
- ・地域学習に取り組む学校や関係機関と連携し、さらにデジタル映像ライブラリーを活用してもらってはどうか。また学校関係者にそのよさが浸透するように、小中高の研究会等で活用した実践の発表などを行い、広報につなげてはどうか。

〔回答〕システムについては、現在のシステムを充実していきたい。今後、デジタル映像ライブラリーの作品と You Tube をリンクしていくなど、現在のシステムで可能なことで検討している。

広報については、新規の DVD 購入を、年度末に小中学校の学校と関係機関に連絡している。ただし、郷土学習教材として製作した DVD の効果については調査の途中であり、今後アンケートを実施していきたい。

(委員)

- ・県民カレッジとしての問題点や目標が見えづらい。対象となる受講者や方向性をより明確にすることが必要ではないか。現状だと今後も同じような課題が上がってくることが考えられる。県民カレッジの認知度の現状を理解して、広報の工夫を進める必要がある。人口減少に対応できるよう新規受講者の情報源の分析、メールマガジンの配信などで進めてはどうか。また、その際企業として何ができるのかを明確に伝えてほしい。

(委員)

- ・とやま公民館学遊ネットは、県内の公民館の情報発信、情報収集に役立っており、非常によい情報ネットワークシステムである。さらに県内の公民館に拡大し、関係者や地域の人が見てくれることを望んでいる。公民館広報で伝えることも検討中である。
- ・県民カレッジの学習内容は、多種多用である。その講座や事業案内のチラシの公民館で広報の仕方や、会場として活用について確認し、公民館職員の県民カレッジの事業に対する理解が深まるようにしたい。
- ・若者（20～30 代）の公民館活動への参加者が少ない。若者を引き付ける活動や講座があったら聞かせていただきたい。

(委員)

- ・県民カレッジからのポスターの掲示やセンターだよりで講座の広報を図っている。講座の内容は高齢者対象のものが多く、出席者も 60 歳以上の方が多い。講座の内容が若者にとって魅力あるものが少ない。土日を開講するなど、実施日の工夫が必要である。
- ・例えば、「ふるさとを知る」と「歩こう会」など、2 つの内容をコラボレーションした事業を企画することが、気づきの多い講座につながる。
- ・公民館では、県民カレッジのチラシやセンターだよりを参考に行事の企画を行っている。

(委員)

- ・今回の会議では、資料を事前配布していただいている。予め地区センターの様子を知るために、各地区センターの運営会議で出された成果や問題点を事前に事務局がまとめ、配布してもらえないか。

(委員)

- ・婦人会が企画する講座で、受講生を募集する際に連携講座を利用させていただいた。とやま学遊ネッ

トによる配信で、会員でない方からの問合せも多く、30代から60代の方に応募していただき、その後も継続して受講している方も多い。ただ連携講座をとやま学遊ネットの支援サービスを使って申し込んだ方が、当日まで分からないことがあったので今後は連絡を密にしたい。

〔回答〕連携講座をとやま学遊ネットで申し込んだ場合は、メールで送信している。ただし、今回のケースは、迷惑メールとして受信されたことが予想される。

- ・連携講座の最低が5単位である。5時間以上の学習時間が必要となってくる。講座の企画する上で3単位の講座はできないものか。

〔回答〕開講式や準備、振り返り等も勘案されるので、事前に相談していただきたい。

- ・講師情報についてとやま学遊ネットを利用したり、地区センターに直接学習相談を行ったりする際、大変丁寧に対応してもらっている。

(学長)

- ・雷鳥会において年5回の広報紙等で、県民カレッジの取り組みを詳しく紹介していただき感謝している。
- ・ワークショップに足を運ばれた方々の間では、大変熱心な意見交換がなされた。「自分の思いを発信したい」、「語りたい」方が多いということを改めて認識する機会となった。ワークショップや交流会が成功するか否かは、指導者の力量に負うところも大きいですが、今後は一方的な講義や見学だけであったことを反省し、受講者の思いを発信する機会をつくっていききたい。
- ・You Tubeに関しては、昨年の予算要求で最後まで財政当局に要求したが、叶わなかった。今後も継続して申し入れたい。
- ・平成17、18年度の県民カレッジの有識者会議において、行政がどこまで生涯学習を担うか、予算をかけるかなど、根本的な議論が行われた。現在、大学をはじめ、市町村、公民館、民間のカルチャーセンターにおいてもいろいろな生涯学習が展開されている。その中で、県民カレッジの役割は、①講座や講師の紹介などの学習情報の提供と相談活動、②主催講座の提供、③自遊塾を始めとする学習交流や成果の発表への支援があげられる。
- ・若者を引き付ける講座を展開することは難しい。市町村、大学などそれぞれの生涯学習提供機関同士での棲み分けがあってもよいのではないか。

(生涯学習文化財室 広瀬社会教育主事)

各委員におかれましては、県民カレッジの事業について様々な視点からご意見、ご提言を頂きありがとうございました。県民カレッジは、一昨年の富山地区センターの設置により4地区毎の生涯学習の拠点ができ、県の生涯学習の推進体制が整備されました。今後、本部と地区センターがさらに連携を強化し、県民の多様なニーズに応えられるように施策を進めていきたいと考えています。また、本日頂いた委員の方からのご意見を県の事業の参考にさせていただきたいと思います。長時間に渡ってご協議いただきありがとうございました。

以上閉会